

梅若研能会

六月公演



写真：【海士】梅若万三郎 撮影：前島写真店

令和5年6月11日(日) 午後1時始 (開場12時)
於 観世能楽堂 Kanze Noh Theater
GINZA SIX, B3F, 6-10-1, Ginza, Chuo-ku, Tokyo
Sunday 11 June 2023 Start 13:00 (door open 12:00)

二十五世観世左近記念 観世能楽堂



東京都中央区銀座6-10-1GINZA SIX 地下3階 TEL 03-6274-6579

- 銀座駅 東京メトロ銀座線・日比谷線・丸の内線 A3出口より徒歩2分
- 東銀座駅 東京メトロ日比谷線・都営浅草線 A1出口より徒歩3分
- 有楽町駅 JR山手線・京浜東北線、東京メトロ有楽町線 銀座出口より徒歩10分

入場料 (全席指定)

指定席A 7,000円 指定席B 6,000円

※学生席 (要学生証) 各席3,000円引き

お問い合わせ・お申し込み

e+ (イープラス)

<https://eplus.jp/ath/word/69495>



カンフェティ TEL0120(240)540 (平日10:00-18:00)

<http://www.confetti-web.com/umeken>



公益財団法人 梅若研能会

〒151-0066 渋谷区西原1-4-2 TEL 03(3466)3041

《メールアドレス》 staff@umewakakenohkai.com

《ホームページ》 <http://www.umewakakenohkai.com>



YouTube 演目の見どころ解説動画を公開中!



Facebook フェイスブックはじめました! 公演情報更新中!



次回予告

令和5年9月21日(土) 於 セルリアンタワー能楽堂

仕舞「老松」梅若泰志、「敦盛^初」梅若久紀、「放下僧小歌」八田達弥
舞囃子「鞍馬天狗」シテ 古室知也
狂言「文山立」シテ 山本泰太郎
能「半部」シテ 中村 裕



写真：【仏師】万作の会提供

能「弓八幡」「海士」みどころ講座

6月4日(日) 13:00~15:00 (開場12:45)

於・梅若万三郎家能舞台 (渋谷区西原1-4-2)

受講料 1,000円 (※研究会入場券購入者は無料)

講師 青木 健一 (あおき けんいち)

昭和57年東京都武蔵野市生まれ、青木一郎の長男。平成17年東京藝術大学を卒業。三世梅若万三郎に師事。平成24年独立。武蔵野市、横浜市、長野県茅野市など都内を中心に精力的に能楽普及に努める。(公社)能楽協会会員、観世流準職分。



講師 梅若志長 (うめわか ゆきな)

平成12年生まれ、梅若紀長の長男。東京芸術大学邦楽科を卒業。祖父・三世梅若万三郎及び父・梅若紀長に師事。平成22年「合浦」にて初シテ、平成25年《千歳》披キ(初演)、平成25年秋「烏帽子折」の子方を勤める。令和3年「石橋」「乱」披キ。



仕舞
采女
通盛
中村 裕
加藤 眞悟

地謡
古室 知也
梅若 紀長
八田 達弥
長谷川晴彦

ツレ(男) 梅若千音世

前シテ(老翁) 青木 健一
後シテ(高良明神)

能 弓八幡

ワキ(後宇多院臣下) 野口 能弘

ワキツレ(従)

者 野口 琢弘

大鼓 大倉慶乃助

小鼓 森 貴史

笛 大川 典良

ワキツレ(従) 者 吉田 祐一

ア イ(山下の者) 高野 和憲

梅若 雅一

後見 梅若万佐晴

加藤 眞悟

地謡

萩原 郁也 遠田 修
梅若 紀佳 伊藤 嘉章
古室 知也 青木 一郎
梅若 泰志 長谷川晴彦

狂言 仏師

シテ(すっぱ) 野村 万作

アド(田舎者) 内藤 連

後見 高野 和憲

(三時十分頃)

子方(房前大臣) 長澤 佑香

前シテ(海) 後シテ(龍)

能 海士

土 梅若 志長

ワキ(房前の従者) 大日方 寛

ワキツレ(従)

者 則久 英志

大鼓 佃 良太郎

小鼓 鳥山 直也

ワキツレ(従) 者 渡部 葵

ア イ(志度の浦人) 石田 幸雄

梅若 紀佳

後見 梅若万三郎

中村 裕

地謡

中村 政裕 遠田 修
梅若 久紀 八田 達弥
梅若 泰志 伊藤 嘉章
梅若 雅一 梅若 紀長

(終了予定 四時四十分頃)

演目の見どころ…

能 弓八幡 (ゆみやわた)

〈弓八幡〉は、高良の神がきびきびとした所作で颯爽と舞う、後場の「神舞」が見どころの脇能(神を主役とする能)です。同じく脇能「高砂」とともに「真の脇能」と呼ばれ、脇能のなかでも格式が高い作品です。作者の世阿弥が、自身の芸談書『申楽談儀』で本作品をすっきりとした風情のある能と自作を評しています。

作品の重要な小道具である桑の弓は魔除の力があるとされます。古代中国には、男児出産のさいに立身出世を願って桑の弓に蓬の矢で射る風俗があり、『平家物語』には、安徳天皇が生まれたときに桑の弓で蓬の矢を射たという記述があります。前場のクライマックスで、老人(実は八幡の末社、高良の神)が、袋に包んだ桑の弓を手渡すのは、戦のない天下泰平の世が続くことを予祝します。

狂言 仏師 (ぶっし)

持仏堂を建立した田舎者が、安置する仏像を買い求めようと都へ行く。仏師を探し求めているところへ、あらわれた都のすっぱ(シテ・詐欺師)が仏師であると嘘をつく。仏像は翌日までにできあがるという。田舎者が翌日たずねると、仏像はできあがっていた。仏像の印相がおかしいので、直してもらおうと仏師を呼ぶと、あわててすっぱがあらわれる。実はすっぱが仏像になりすましていたのだ。手直すごとに仏師と仏像が入れ替わるが……。お楽しみに。

能 海士 (あま)

母子の強い愛情と、仏教における龍女成仏の奇瑞を描いた作品。

能の前半の見どころは、海士が宝珠を奪い返す場面「玉ノ段」。変化に富んだ節の謡と所作がぴったりと合った仕方話です。

龍女の舞う「早舞」も見どころ。後半の舞の場面には、龍女が男子に変じて、観世音菩薩の浄土に転生した法華経の教義がふまえられています。荘厳な法要の様子と龍女が成仏していくことが、謡だけでなく舞によっても表現されます。